特集

富里ゆかりの表現者たち

富里市には、さまざまなかたちで表現を続ける人たちがいます。
この特集では、富里にゆかりのある４人のアーティストに、活動の原点や創作への想いなどを伺いました。



萩原（はぎわら）　譲治（じょうじ）さん

1951 年生まれ、千葉県出身。富里市在住の画家。
「宇宙・人間・生命」をテーマに、豊かな色彩で作品を描く。
18 歳で新興美術院展初入選後、国内外で数々の賞を受賞。
ケンブリッジ国際伝記センター副議長、タイ国立シラパコーン大学客員教授など多数の要職を務める。
2022 年には、市制 20 周年を記念して「富士飛翔」を市に寄贈し、翌年には、とみらいテラス（市立図書館）で個展を開催するなど、地域の芸術文化振興にも取り組む。

「美術は『心』をはぐくむ最高の産業」

■ 活動の原点

小学校５、６年生の頃、フランスの画家・ミレーの作品を模写したんです。特別な練習を重ねていたわけではないのに、その出来栄えが素晴らしかったようで、周囲の大人や学校の先生方が大変驚かれました。そこから自然と画家への道を歩むようになりました。

■ 富里市との関わり

平成元年ごろに富里市に居を構えました。街がさらに発展していく中で、美術や文化の力で市民の皆さまの心をより豊かに高めたいという強い願いがあり、富里に合うと感じた絵『土着の力』を市に寄贈させていただいたこともあります。

■ 創作への想い

美術は、人間の『心』を豊かにする最高の産業です。私は、絵を通じて人々の心の中に温かい『エネルギー』を灯したいと願って、色鮮やかな色彩を使い続けています。

■ 市民の皆さまへ

美術や文化に触れて少しだけ『心の広がり』を持ってほしいと願っています。外側の世界だけでなく、自分自身の内面をみつめる温かい心。その心が広がれば、どのような困難も乗り越え、共に手を取り合って生きていけるはずです。私の絵が、心を広げるものの一つとなれば幸いです。



井関（いせき）　洋（よう）さん

1964 年生まれ、東京都出身の版画家。
日本大学芸術学部卒業、筑波大学大学院修士課程修了。
木版画を中心に多様な技法で作品を制作し、台湾やインドなどの国際版画展に出品。
第8回鹿沼市川上澄生美術館版画大賞では審査員賞を受賞。
2022 年には、とみらいテラスで「萌芽」をテーマに、版画展を開催。

「版との対話から生まれる、未だ見ぬ形」

■ 活動の原点

日本大学芸術学部に入学し、版画実習で味わった独特な緊張感と表現の深さに魅了され、版画の道へと進む決意を固めました。

■ 富里市との関わり

高校で美術の授業と部活動の指導に携わっていますが、富里市には教え子が多くおり、今もアートを通じて交流があります。また、2022 年 10 月に新設された「とみらいテラス」ギャラリーで、私の個展を開催させていただき、市とのつながりがさらに深まりました。

■ 創作への想い

水彩絵具を使う伝統的な日本の水性木版画を手がけています。バレンで繊細な色彩と温かみを生み出し、水・木・和紙といった自然由来の素材を中心に扱うため、身体にも環境にも優しい制作を行っています。

■ 市民の皆さまへ

生成 AI によって生活が豊かになる時代となりましたが、本物の芸術を味わい、心を通わせる時間も必要不可欠と感じています。市が推進する芸術鑑賞事業の果たす役割は大きいと考えており、私自身も微力ながら、芸術活動を通じてその一翼を担っていきたいです。



不二本（ふじもと）　蒼生（あおい）さん

1947 年生まれ、石川県出身。富里市在住のイラストレーター。
書籍の装画や雑誌の挿絵、広告などを幅広く手がけ、幻想的な作品から吉祥画まで多彩に描く。
1968 年東芝レコードのグループサウンズ「ザ・ライオンズ」ポスターコンペティションで特賞を受賞。
市制記念モニュメント「親子馬の像」をデザインするなど、地域に根差した制作活動も行う。

「人や社会のために、生涯描き続けたい」

■ 活動の原点

幼い頃から絵を描くことが好きだったので、これを仕事にしていきたいと子どもながらに考えていました。

■ 富里市との関わり

市をはじめ、さまざまな事業者からイラスト・デザイン制作の依頼を受け、交流を深めてきました。市広報紙の表紙イラストや、スイカロードレース大会Ｔシャツのデザイン、富里市「新木戸大銀杏公園」案内板イラストの制作に携わったことは、特に印象に残っています。

■ 創作への想い

さまざまな人からの依頼を受けてイラスト・デザインを制作していますが、私自身の固定観念やデザインなどに対する想いなどに左右されず、依頼していただいた方々に満足いただけるものを提供する。そのために最善を尽くすよう、日々活動しています。

■ 市民の皆さまへ

市役所玄関前の親子馬の像や新木戸大銀杏公園の案内板、月刊誌ムーのミステリー体験イラストなど、私が手がけたイラスト・デザインをご覧いただければ幸いです。



宮内（みやうち）　優里（ゆうり）さん

1983 年生まれ、千葉県出身の音楽作家。
2006 年に CD デビュー。生楽器の演奏とプログラミングを組み合わせ、即興で音を重ねる演奏を得意とし、全国の図書館などで BGM 演奏を展開。
映画「リトル・フォレスト」「岬のマヨイガ」や、NHK・E テレの番組音楽などを手がける。

「心安らぐ、穏やかな音楽を届けたい」

■ 活動の原点

活動を続けていく中で、穏やかな音楽を表現したいとの思いが強くなり、BGM 演奏というジャンルに興味を持ちました。その折に「読書のための BGM 演奏」の依頼を受け、私自身も良い手応えを感じてから、現在の活動を多く行うようになりました。

■ 富里市との関わり

今から4年前に市からいただいたお話をきっかけに、とみらいテラスで活動を続けています。とみらいテラスは、ガラス張りになっているので心地よい日差しも入ってきますし、天井が高く、BGM演奏の環境としてとても良い空間だと感じています。

■ 創作への想い

心地よさを生み出しながらも、お客さまに音楽をはっきりと意識させないことを心がけています。例えるならば、心地よい「そよ風」を起こすようなイメージで、目の前で演奏していることをお客さまがつい忘れてしまうくらいの音楽を目指しています。

■ 市民の皆さまへ

図書館に音楽が流れていることに疑問を感じる人もいらっしゃるかと思いますが、この場だから感じられる心地よさもあると感じてます。穏やかな時間をご一緒できたらうれしく思います。令和９年１月にとみらいテラスで演奏を予定していますので、ぜひお越しください。